

《担当者名》 歯学部教授 / 齊藤 正人 歯学部講師 / 倉重 圭史 歯学部助教 / 大友 麻衣子
 歯学部助教 / 榊原 さや夏 歯学部助教 / 藤田 裕介

【概要】

・小児歯科学は小児の口腔の正常な発育を図るためにこれを障害する異常や口腔疾患（齲蝕・歯周疾患・咬合異常など）の予防と治療を行い、健全な機能を持つ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身の発育と保健に寄与する歯学の1分野である。さらに成長変化が継続している小児を対象にしているため、その発育の特徴と歯科疾患を理解した上で、チェアサイドでの診療補助はもちろん、小児を対象としたフッ化物塗布やブラッシング指導などの予防活動も、歯科医と共に行えるような基礎的知識が要求される。特に小児歯科の臨床では対象が乳幼児から思春期までの年齢範囲になり、子供や保護者との対応の他、治療をスムーズに進めるためには、治療現場での補助も大きな比重を占める。このため、小児の増齢に伴う心身の特徴の他、口腔疾患、および予防法、対処法などを十分に理解しておくことが必要であり、これらを学ぶことが全体的な目標となる。

【学修目標】

- 小児歯科学の意義と目的を理解し、小児期の身体および精神発達の概要について正しい知識を修得する。
- 小児の顎・顔面・頭蓋の成長発達、歯および歯列の発育について正しく理解する。
- 小児期の特徴を理解した上で、年齢別・発達段階別にみた小児および保護者への適切な対応法について理解する。
- 小児歯科の診療の流れを理解し、4 handed dentistryの基本について理解する。
- 小児歯科における各処置（麻酔、ラバーダム、修復、歯内療法、外科、咬合誘導）の目的、適応症、術式、注意点などについて理解する。
- 小児齲蝕の特性、原因、為害性および齲蝕予防処置・指導法（プラークコントロール、フッ化物応用法、食事・間食指導）について理解する。
- 小児歯科診療におけるリコール（定期診査）システムの意義と重要性などについて理解する。
- 心身障害児の特徴および歯科治療時の注意点、介助法などについて理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 ・小児歯科学とは 小児と歯科医療 小児歯科の意義と目的 発育段階と口腔の変化	小児歯科学の意義と目的を理解できる。 P.2 - P.4	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
2 3	編 小児歯科診療の基礎知識 2章 心身の発育 ・発育の概論と分類 ・発育状態の評価 ・生理的年齢 ・器官の発育 ・精神発達 3章 小児の生理的特徴 ・バイタルサインと生理的特徴 ・薬剤処方と薬物療法	小児期の身体発育、精神発達、生理的特徴についての概要を学び、小児に対する正しい知識を習得できる。 P.5 - P.17	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
4	編 小児歯科診療の基礎知識 4章 顔面頭蓋の発育 ・脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化 ・脳頭蓋の発育の特徴 ・顔面頭蓋の発育の特徴 ・発育の評価法	小児の顎、顔面、頭蓋の生理的な成長発育のあり方について理解できる。 成長発育の法則、成長の評価法、上顎骨・下顎骨の成長発育の要因などについて理解できる。 一般的な歯の発育、萌出、交換の時期、あるいは順序を理解できる。また乳歯・幼若永久歯の形態、組織学的特徴についても理解できる。 P.18 - P.24	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	編 小児歯科診療の基礎知識 5章 歯の発育とその異常 <ul style="list-style-type: none"> ・乳歯・幼若永久歯の特徴 ・歯の形成 ・歯の発育時期と形成異常 ・歯の萌出 ・歯の萌出異常 	一般的な歯の発育、萌出、交換の時期、あるいは順序を理解できる。また乳歯・幼若永久歯の形態、組織学的特徴についても理解できる。 P.25 - P.35	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
6	編 小児歯科診療の基礎知識 6章 歯列・咬合の発育と異常 <ul style="list-style-type: none"> ・歯列・咬合の発育 ・歯列・咬合の異常 4章 小児の口腔保健管理 <ul style="list-style-type: none"> ・目的 ・方法 	顎、顔面の成長発育における歯列および咬合の特徴と推移を理解できる。 Hellmanの咬合発育段階、生理的歯間空隙、乳歯列および混合歯列の特徴、Terminal plane、第1大臼歯の萌出について理解できる。 P.36 - P.44	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
7) 8	編 小児歯科診療の基礎知識 7章 小児の歯科疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・小児にみられるう蝕 ・小児にみられる歯周疾患 ・小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 	齶蝕発生のメカニズムを理解できる。 ブラーク、歯質、砂糖と齶蝕の関係について知識を習得する。 乳歯齶蝕の罹患状況、年次的推移、地域差、環境差、などについて理解できる。 乳歯齶蝕の特徴(哺乳ビン齶蝕など)と好発部位について理解できる。 小児の歯周組織の特徴を理解できる。 口腔粘膜や歯肉に現れる疾患を理解できる。 P.45 - P.57	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
9) 10	編 小児歯科診療 1章 小児期の特徴と歯科的問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・乳・幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患 ・学童期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患 ・思春期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患 2章 小児歯科における診療体系 <ul style="list-style-type: none"> ・小児歯科診療とその特徴 ・小児歯科診療における原則 ・診察・診査・診断 ・母親教室 ・小児歯科における麻酔法 ・小児の歯冠修復 ・小児の歯内療法 ・小児の外科的処置 ・外傷の処置 ・咬合誘導 ・フッ化ジアンミン銀塗布 ・リコール 	小児期の特徴と歯科疾患を理解できる。 小児患者に対する診査と診断の重要性および治療計画立案の基本、また初診からリコールに至る小児歯科診療の流れについて理解できる。 保護者に対して小児の歯科診療の重要性を認識理解させることは必要なことである。診療室で行っている母親教室用のスライドを用い解説できる。 小児歯科診療におけるリコール(定期診査)システムの意義と重要性、管理方法、間隔、診査項目について理解できる。 P.60 - P.90	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	編 小児歯科診療 3章 小児歯科における患者との対応法 ・はじめに ・患児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係 ・年齢別にみた小児の行動と対応法 ・歯科治療時の対応法	小児歯科と成人歯科との対応法の違いについて理解できる。 小児の情動や考え方などの精神発達を理解し、年齢別対応法を理解できる。 歯科診療室における小児の態度や行動に影響を及ぼす要因を理解できる。 小児歯科診療室における小児の対応法の種類を節美できる。 P.91 - P.109	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
12	編 小児歯科診療 4章 障害児の歯科診療 ・障害児における歯科的対応 ・主な障害とその全身的・歯科的特徴 ・障害児への対応 ・小児の摂食・嚥下障害の特徴	障害児の特徴と健常児との違いを説明できる。 知的障害（精神遅滞）について説明できる。 障害児の歯科保健について説明できる。 障害児の歯科治療に用いる器材を説明できる。 障害児に対する歯科治療を行う上での問題点を理解できる。 P.110 - P.121	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
13	編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 1章 診察・検査時の業務 ・診察・検査の目的 ・医療面接 ・診察・検査に必要な器材の準備 2章 齲蝕予防 ・ブラークコントロール ・フッ化物の応用 ・小窩裂溝填塞法 ・食生活指導	小児歯科診療の目的と歯科衛生士の役割を理解できる。 診察・検査時に必要な器材を説明できる。 口腔内環境を左右する因子を学び、ブラークコントロールの意義を科学的に理解する。 フッ化物、シーラントについて正しい知識を身につける。小児の齲蝕予防を目的として、小児の生活における食事指導法、間食指導法について正しい知識を修得する。 P.124 - P.139	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
14	編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 3章 小児歯科診療における診療補助 ・診療補助と歯科衛生士 ・保存修復 ・歯内療法 ・外科的処置 ・咬合誘導	小児歯科診療の流れと歯科衛生士の役割を説明できる。 小児歯科診療に必要な器材と留意点を背地名できる。 小児および保護者に対する歯科衛生士の対応について説明できる。 P.140 - P.167	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介
15	編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 4章 小児の口腔保健管理 ・目的 ・方法 5章 歯科診療室の器材と管理 ・歯科診療室の管理 ・器材の管理 まとめ	小児歯科診療室の特徴を説明できる。 小児歯科診療室で用いられる器材管理について理解できる。 P.177 - P.180 これまで学んできた小児歯科学の復習を行い、知識・理解について評価できる。	齊藤 正人 倉重 圭史 榊原 さや夏 大友 麻衣子 藤田 裕介

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(90%)、授業態度(10%)

【教科書】

「最新歯科衛生士教育 小児歯科」 全国歯科衛生教育協議会監修 医歯薬出版
その都度講義プリントを配布する。

【備考】

個人情報（患者情報）保護のため、スライドや講義内容の写真撮影や録音などを禁ずる。

【学修の準備】

予習として、指定した教科書の項目を事前に必ず読んでおくこと（40分）。

【実務経験】

齊藤正人（歯科医師）、廣瀬弥奈（歯科医師）、倉重圭史（歯科医師）、大友麻衣子（歯科医師）、榊原 さや夏（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機能をもつ総合的咀嚼機能器官を発育、小児の全身的発育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした体験談や症例を例示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。